

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和 2 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	地域共生のまちづくり推進事業				②事業番号	4512	
③事業類型	3. 政策推進事業			④開始年度	令和 2 年度	⑤終了予定年度	令和 4 年度 設定なし
⑥根拠法令等	☒ 法令	☐ 条例	☐ 規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称
⑦実施手法	直営	全部委託	☒ 一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	3 項	1 目	9 細目	10		
⑨担当部名	⑩担当課名			会計			
福祉保険部	長寿社会推進課			一般会計			

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市民	① 市民	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
地域において、地域住民等による「泉南市福まちサポートリーダー」を養成し、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)等の協力により、多世代に対応し得る「(仮称)総合相談センター」を開設する。	① 対象地域	地域
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
地域において「社会的包摂」の実現を目指すため、多世代が利用でき、かつ、訪問活動(安否確認や要援護者の掘り出し等含む)の拠点等とすることにより、地域コミュニティの構築に資する事業を推進し、“いつでも、誰でも、気軽に”集いあうことができる、地域に開かれた「小さな拠点機能」を、利用者が安心・安全そして快適に利用できるよう、また、地域住民の一人ひとりの力を合わせ、“誰も置き去りにしない泉南市”を構築する。	① 福まちサポートリーダー養成(累計)	人
	② 計算式	
	③ 計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
地域環境・社会環境の整備・改善(ゼロ次予防)に取り組むことで、住民同士が地域でつながり、支え合う社会(地域共生社会)の実現を目指す。	政策(章)	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
(2—3—2—3): 高齢者が地域の活動に参加することで、自立支援・生きがいがいづくりにもつながる。	施策大(節)	3 みんなで支えあう福祉のまちをめざします
	施策中	1 地域福祉の推進
	施策小	2 相談支援体制の充実

〔2〕各種指標値、事業費の推移

指標名		単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標①	市民	人			60,795	—	—	
対象指標②								
活動指標①	対象地域	地域			2	3	—	
活動指標②								—
活動指標③								
成果指標①	福まちサポートリーダー養成(累計)	人			35	45	—	
成果指標②								
成果指標③								事業費などの推移における 特殊要因などの説明
事業費	投入人員	人			0.68	0.68		
	正職員	人			0.00	0.00		
	任期付職員	人			0.00	0.00		
	臨時職員	人			0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員×単価)	千円			5,190	5,190		—
	直接事業費	千円			6,671	10,280		
	総事業費	千円			11,861	15,470		
財源内訳	国庫支出金	千円			3,335	5,140		—
	府支出金	千円			0	0		
	受益者負担金	千円			0	0		
	その他特定財源	千円			3,336	5,140		
	一般財源	千円			5,190	5,190		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	平成29年4月「地域共生社会の実現」を盛り込んだ社会福祉法の一部を改正し、令和2年6月地域生活課題の解決に資する支援を包括的に行うための「重層的支援体制整備」等を新設した社会福祉法等の一部が改正され、令和2年3月「地域共生社会の実現」に特化した第3次泉南市地域福祉計画及び地域福祉活動計画【追加版】が策定された。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	少子高齢化や核家族化といった社会全体の構造の変化により、家族の形や地域の姿が変化し、家族機能の変化や価値観の多様化により、個人や世帯が抱える課題の複雑化・多様化が予想される。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	H25年度に福まちサポートリーダー1期生を養成したが、具体的な活躍の場の設定ができていなかった。今回、改めて泉南市地域共生社会実現推進事業実施要綱及び泉南市福まちサポートリーダー配置促進事業実施要綱を定め、目的を明確にした。

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	地域の実情に応じて機能させる必要があるため、

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

A

②期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	地域の要望に応じて住民説明会等を丁寧に実施することで、住民の理解を得て予定を上回る人数の福まちサポートリーダーを養成することができた。今後、実際の活動につなげる必要がある。
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	CSWとの連携により、効率的に事業を推進する。
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	対象が地域住民であり、高齢者に限らないため、他部署と連携して地域住民の支援に取り組む必要がある。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

A

⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などではありませんか。)	ア. ある イ. ない	地域住民を中心とした総合相談窓口を設置することで、支援が必要な状態である人をより早く把握することができ、必要に応じて専門職へ繋ぐことができる。
---	-----------------------------------	---

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	福まちサポートリーダー修了生と共に地域での活動について、協議し実践する。また、小さな拠点機能整備を市内他地域へ広げていく。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 (年まで) エ. 休止 (年から) オ. 廃止 (年から)
	↓
<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	

①改革、改善の具体案、実施年度など	—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—